会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和５年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業（２）教職員の資質能力向上の推進① 効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第5回産学連携員育成講座開発委員会 |
| 開催日時 | 令和6年2月8日（木）10:00～12:00 |
| 場所 | 学校法人YIC学院 |
| 出席者 | 監督者等：岡村　慎一、成底　敏（OL）委　　員：柳田　祐大、森川　和哉、藤井　貴志(OL)、土井　宏美、　　　　 及川　源太、三村　隆男(OL)、林　透(OL)　　　計9名請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計10名 |
| 議題等 | ◯アンケート調査報告書（柳田）　Slack上で議論完了。◯ヒアリング調査報告書(森川)　Slack上で議論完了。◯産学連携推進に関する育成講座「サンプル版」（柳田）・コンセプトとして、①技術習得②社会や産業界のニーズに応える③キャリア教育の考え方を取り入れる④意思、役割、能力を研修設計する。実践者としての視点を推進者との視点を組み込む。（柳田）・専門性の要素として責任も組み込むことが重要ではないか。（三村）・学習評価等について、エビデンスを担保しながら進んでいく必要がある。（岡村）・事前学習→集合研修１→集合研修２を通じて、研修実施計画を策定することが挙げられるが、これを学内にどのように持ち込むのかも考えたい。（柳田）・事前学習の中で、職業実践専門課程の教員要件の再確認という意味でも産学連携の必要性を入れるべきだと思うがいかがか（柳田）・職業実践課程における学習成果における産学連携の必要性について入れていくべきである。（柳田）・職業実践専門課程の産学連携推進員のミッション確認も事前学習として必要である。（林）・そもそも推進員を育成するということは推進出来ていない理由があるはずまので、こうしたことに対応するためにも必要だと思う。（柳田）・キャリア教育の定義をまずは理解していただき、産学連携の重要性を表現していきたい、役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことを目指している。（柳田）・集合研修の冒頭では、シナリオ分析ワークを行っていただく。ワークは２段階。ワーク１についてはキャリア教育の視点などを理解していただく。具体的には、カリキュラム作成の視線などを考えている。ワーク２では現状の思考を超えていくような変革を求めていく予定である。（柳田）・キャリア教育コーディネータ育成と今回開発するものの違いを明確に必要がある。コーディネーターは外部と今回の立場は推進員なので当事者意識を明確にする必要がある。他校と自校で同じ教育でやっていることではないので、自校としての意見や他校の見解などを共有することや自分たちとしてはどうしたいかなどが重要ではないか。（三村）・キャリア教育については、すでにT C E財団が実施している。今回のプログラム開発ではキャリア教育と職業教育をクリティカルに理解する必要がある。（岡村）・資質能力、知識技術、人言性の方で分析ができるのか。シナリオがグッドプラクテクスすぎるのではないか。もう少しワークの内容について考えていただきたい。（林）・自分の立場が直接の当事者としてやっているのか、色々な意見を集約してアドバイスする立場であるのかなどは視線として入れるべき。（及川）・キャリア教育と職業教育をどのように考えるかとアメリカで意見を聞くとこの２つはほぼ同一の意見として捉えられている。これを区分するのではなく同調してやっていくことは良いと思う。（三村）・職業教育の中にキャリア教育が包括されているという点を明確に示していきたい。（岡村）・産学連携はどうあるべきか、何が必要か、何が出来ているのかなどを明確に意識できるようなプログラムを再検討していきたい。（柳田）・アウトプットは2月いっぱい。次年度実施する検証に使えるものを作成してください。（飯塚）・研修の対象は、工業・商業実務分野をターゲットとしたい。（柳田）・地域については、全国的に募集をかける予定です。（柳田）・実績報告ビデオに関しては、すでにツールが回っているので私の方で作成します。（柳田）・次年度計画として、検証は何度実施するか。（柳田）・３年度目は、ファシリテーター育成となる。（柳田）・次年度の研修実施設計については、柳田委員長に一任する。 |
| 配布資料 | ・第5回産学連携推進育成講座開発委員会資料 |

以上